

こらぼ大森・地域イベント掲示板

OTAふれあいフェスタ2017

～笑顔このまちから 地域力・国際都市～

日時：11月4日（土）5日（日）10時～16時

会場：①平和島公園

②平和の森公園

③大森ふるさとの浜辺公園

④ボートレース平和島



内容：アマチュア音楽祭や体験ワークショップ

他にもお楽しみ企画多数あります。

主催：OTAふれあいフェスタ実行委員会、大田区

ドキュメンタリー映画 「こどものそら」上映会

どの子も排除しない地域をつくるために

日時：11月18日（土）午後1時半～4時

場所：こらぼ大森 多目的室

内容：基調講演 東村山市 小学校教師 宮澤弘道さん

DVD「こどものそら」一部上映

※ハンディのある子もない子も、ともに遊ぶ

「つばさクラブ」を舞台にしたドキュメンタリー

※連続講座とし翌月16日にワークショップも開催

参加費：無料

主催：NPO法人大森コラボレーション

企画・運営：こらぼ大森障がい児・者実行委員会

問合せ/電話・FAX：03-5753-7884

第14回 ポレポレECOまつり

タイムトンネルくぐってみよう

～江戸と今のあそび心～

日時：11月12日（日）11時30分～15時30分

会場：こらぼ大森 グラウンド・体育館

主催：おおもり子どもセンター

子ども交流センター（電話：03-5753-6801）

活動レベルアップ講座 大田区立消費者生活センターにて

一活動の仲間が増える秘訣を探るー
人が活かされる場のつくりかた

会員やボランティアなど活動する“仲間”を着実に増やしながら、事業の展開に結び付けてきた団体のリーダーから経験談をうかがい、具体的なアドバイスもいただきながら、そのヒケツを学ぶ区民活動団体向けレベルアップ講座です。

日時：12月5日（火）

18：30～20：45（開場：18：00）

会場：大田区立消費者生活センター 大集会室

定員：60名（先着順）参加費：無料

申込締切：11月24日（金）

※手話通訳が必要な方はご連絡ください。

内容：パネルディスカッションとワークショップ

登壇団体：

○英会話同好会 EDO会

○NPO法人ユースコミュニティ

○NPO法人読み聞かせネットワークヒッポ

○一般社団法人木谷ウォーキング研究所

主催：こらぼ大森

協力：大田 NPO 団体交流会

おおた NPO 活動団体連絡会

申込：氏名、所属（あれば）連絡先明記、

下記こらぼ大森担当まで。

電話・FAX / : 03-5753-6560

mail : cbc10286@nifty.com



発行：こらぼ大森ニュース編集委員会

TEL/FAX：03-5753-6560

E-mail：cbc10286@nifty.com

URL：http://collabo-ohmori.com/

住所：大田区大森西 2-16-2

大田区民活動支援施設大森【こらぼ大森】

こらぼ

大森ニュース 第26号

2017年11月1日 発行

- 子ども交流センターのポレポレECOまつり
- 国境や民族を越えたつながりをつくる活動
- 大田区総合防災訓練（大森西地区）のご報告
- こらぼ大森・地域イベント掲示板
「OTAふれあいフェスタ」「活動レベルアップ講座」など



子ども交流センターのポレポレECOまつり 11月12日 ～こどもたちを真ん中に、みんなが手をつなぐ地域のおまつり～

今年のポレポレECOまつりのテーマは「タイムトンネルくぐってみよう～江戸と今のあそび心」 石臼や機織りなどの体験コーナーの他、子どもたちの「お店屋さん」もグラウンドいっぱいに出店します。今回は「あそびの忍者」も登場するそうです。子どもたちの「なにかやってみたいな」という気持ちを大事に、大人も一緒になって作るおまつりです。皆様、ぜひご来場ください。

Let's こらぼ



こらぼ大森では、立ち上げ期の区民活動団体を対象に、共同事務室の貸出しをしています。ここを拠点に様々な団体が力をつけて巣立ってきました。

共同事務室の入居団体のひとつである地球対話ラボを紹介いたします。団体の設立から現在に至るまでのあゆみを伺いました。

国境や民族を越えたつながりをつくる活動

NPO 法人地球対話ラボ 事務局長 渡辺裕一さん のお話より

テレビに代表されるような動画メディアは、相手の反応や自分の考えを伝えるには技術的にも適さないものとされていましたが、インターネットの発達により、その瞬間に双方向での交流が地球上のどこでも容易になりました。

今では当たり前になったお互いの顔を見ながら話すようなテレビ電話。それが普及し始めた2002年に地球対話ラボは設立されました。また、動画撮影の機材は廉価なものが登場し、軽量化が進むことで、一般の人も気軽に扱うことができるようになった時代でした。



(▲交流にはスマートフォンを活用)

地球対話ラボの活動で大切にしているキーワードのひとつは、そのような時代を活かした“双方向”だそうです。参加者には若者が多く、国境や民族を越えた人々の「つながり」を創ってきました。多様性に触れながら、様々な違いを認めあい、遠い国で起きていることも自分事で考えられる大人になってほしいとの思いで活動をしているそうです。

今まで、ブータンやインドネシアなど9か国と日本の子ども達の交流の機会を創ってきました。交流イベント当日にいたるまでには、お互いの国の大学生を派遣しあい、文化や芸術などについて、事前学習の機会を設けています。当日の交流では、今までの学びを活かして、質問を行います。声や表情で気持ちも伝わることで、「知識」だけではなく実感のこもった「経験」になるそうです。

またこの間に、東日本大震災の被災地であり、大田区の友好都市にもなった東松島市をひとつの拠点とした活動を展開してきました。2004年にスマトラ島沖地震を経験したインドネシアのアチェの子どもたちと交流をした東松島市の当時の小学生は、現在大学生となり、活動の担い手として、他の国の交流のお手伝いをしているそうです。国と時代を越えた交流に今後も注目です。



(▲東松島市の子どもたち。奥には交流国の大学生)

大田区総合防災訓練（大森西地区）のご報告

「火事だー！」子ども達の大きな声が会場全体に響き渡りました。10月8日（日）、こらぼ大森において、大田区総合防災訓練が開催されました。今回は「楽しく学べる防災イベント」をテーマに、たくさんの方が参加されました。

冒頭の子ども達の大きな声は、大声測定訓練の様子。火災が発生したら、まず大きな声で隣近所に知らせることが重要です。火災に対しては、消火器・消火ホースの使い方を、エア消火器で風船を割ったり、消火ホースでボウリングピンを倒したりと、子どもも大人も楽しく学びました。



ブース出展しました

大田区総合防災訓練に、こらぼ大森情報交流室Ⅰもブース出展いたしました。

私たちのブース「水運びチャレンジ」は多くの方にご来場頂き、「日常生活ですぐに役立つ知恵が習得できてよかった！」との声を多数いただきました。リュックの作り方や役立つ情報満載のパンフレットは情報交流室Ⅰにて配布しています。ご希望の方は是非どうぞ！

また、家具転倒防止対策の相談がある方もお声がけ下さい。転倒防止の助言やサポートの活動をされている方について情報提供致します。

(こらぼ大森情報交流室Ⅰ)

一方、過去の震災からの教訓や被災地支援に関する特別講話もありました。ライフラインが停止した際に一番困ったことは水道であったといます。「1人1日3リットル」、これには生活用水が含まれていません。飲料水を備蓄することはもちろん、お風呂の水を溜めておくなどの「水の汲み置き」が重要なキーワードになります。しかし、3リットルの飲料水を持ち運ぶのは大変困難です。こらぼ大森ブースでは、身近なものを使用して実際に水の入ったペットボトルを運ぶチャレンジ体験をしました。さらに、当日配布された「在宅避難に役立つ7つのこと」には、家庭でできる防災対策についてのヒントがたくさん掲載されていました。

火災、地震、風水害など、災害には様々なものが考えられますが、自分の身を守るのは自分自身です。いつ発生するかわからない災害に備え、家庭内における家具の転倒防止、飲料水や食糧、簡易トイレの備蓄など、日頃からできることを一人一人が実践することが重要です。また、防災訓練をはじめ、地域行事に積極的に参加するなど、日頃から地域の方との顔の見える関係を築くことも重要な防災対策となります。一人一人の高い防災意識をもとに、今後さらに災害に強いまち「大森西地区」を皆さんで作っていきましょう。(大田区大森西出張所)

